

「ビンギョル地震 2003・5 No4」

今回よりニュースの名前から「メルハバ」を取ります（「何で地震にメルハバと挨拶しなければならんのや！」とトルコ人に不評だそうですから）。

被災地ビンギョル入りした佐々木さんからの続報です。長文ですので、2度に分けてお送りします。なお、彼は、6日の晩デリンジェに戻り、すぐにメールを送ろうとしたのですが、トラブルっていて遅くなったとのことでした。

ビンギョルから その2（5月5日）

早起きして2日目のビンギョルへ向かう

5分も走れば、小麦畑・レンズ豆畑が視界いっぱいに広がる遙か向こうには2千メートル級の雪山、菜の花の黄色とケシの花の赤がこの地の春を教えてくれる。2日間の行動中、Tシャツ一枚で日中は問題ない。初夏まで一緒にやって来ている。昨日はフリーパスに近かった最初の検問所、責任者が偏屈に交代して「正式な許可が無いと、外国人は絶対通さない！」ときた。「私たちはビンギョルの最高司令官アタ・アルカン(Ata Alkan)氏の許可がある、問い合わせしてくれ」と、伝えることさえ拒否されて、取り次ぎの兵隊さんたちが気の毒がってくれるが、時間は無駄に過ぎていく。こちらからの連絡がやっとなとれて再度通過の手続きに行くと、手のひらを返した対応でパスポートを見ることさえしなかった。せっかくの早起きが、高原の日向ぼっこ2時間に・・・

この10年間の戦闘でトルコ軍人3万人が死んでいる。街で10ドルもだせば自動小銃でも拳銃でも簡単に手に入る・・・「トルコの東部」にはそんな意味もある。昨夜も4人のゲリラが800人の軍隊と戦闘になり兵隊二人が死んだ「死んだのは私の友達だった・・・」と、今回便宜をはかってくれている通信兵のセダー(Serdar Ibis)が教えてくれた。

○チェリティクス寄宿学校(Celtiksu Yatulu Okulu)

昨日(4日)で緊急救命作業は終わった。民間救援チームも車を連ねて朝からアダナやアンカラへ帰って行った。瓦礫の下にいるであろう7人の安否は昨晚のうちに「生存者なし」の報道にすり替わっている。現地で情報に接する意義再確認する。ここの寄宿舎では優しい配慮で、小さい子どもたちがトイレなどの共有設備に近いところから順番に部屋が割り当てられていたらしい。

共有設備＝間仕切りが広い＝崩れやすい・・・犠牲者が集中・・・

弱いものへの優しさが結果として、弱いものから順に生命を奪っていった

こんなこともある・・・

この学校の生徒たちは、病院に入院したり、家に戻ったりして散り散りに被災生活を過ごしている。再開の目途はたっていないとのこと。寄宿舎の再建工事ははじまったとのニュースが7日朝のテレビが伝えている。今度こそは人の生命を守れる建物であることを・・・。国は精神分析の専門家が緊急に2ヶ月間、その後継続的に2年間は、この学校の生徒たちも含めて被災者の「心のケア」に当たることが決定していると、市役所の担当が教えてくれた。

○どれもが「だるまおとし」

チェリティクス寄宿学校の校舎もそうだったように、倒壊した建物のほとんどは1階部分が押し潰されて2階以上が地面にそのままある。「倒壊」という言葉すら当てはまらない「1階が消失した」という表現が適切なほどだ。2階部分の外側にはグニャリと曲がった鉄筋がむき出しでへばりついている。

市街の中心地より、郊外東部に被害が集中している何軒もそんな建物にであった。東に5分ほどの道路沿いに10数戸の白い市営住宅群がある。外観からはほとんど被害は確認できないが、空き地にテントが並んでいる。聞くと30年前の地震の後に建てられた耐震住宅で、水圧の関係で3階以上で断水している意外には生活に支障はないとのこと。しかし余震の恐怖からテントを確保して生活しているのだと。

「アルプスの少女・ハイジ」の世界を想像して下さい。

・・・そんなも見たこと無いとおっしゃる方は ごめんなさい。

ペーターが羊を追っている草原や、山の斜面にある村をそこから見える景色を想像するとそこがビンギョルです。

周りを雪山に囲まれた盆地の真ん中に、街があるそこがビンギョルだと思ってもらって正解です。

山間の村から街に通うには 学校は遠い。

寄宿舎のある学校に子どもたちは寝泊まりして勉強をする。

決して立派な建物では無いけれど、村や街の将来を背負う子どもたちのために、家族は別離の不便と悲しさよりも、学校に子どもをおくる数週間に一度、村の家に戻ることを楽しみに勉強を続ける、その夜 地震が襲う。

その刹那に息絶える 子どもたち

瓦礫の下で何日も飢えと寒さに耐える 子どもたち

難を逃れて友人の死を知らされる 子どもたち

ビンギョル郊外の学校で起こったことです

■募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて、通信欄に「トルコ地震」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させていただきます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同NEWSでご紹介させていただきます。

口座番号:00930-0-330579

加入者名:海外災害援助市民センター

*通信欄に「トルコ地震」と明記してください。

